

# 私の「ゴレ」が 国を変ええる！

女性だからこそ、祖国のためにできることがある。自国の女性たちの生活改善に向けて奮闘する3人を紹介！



in  
パキスタン

レイルウェイロード技術短期大学 建築学科 教員

## アジア・ジャビーンさん

### 手に職で切り開く女子学生の未来

**パ** キスタン北東部の都市ラホールにあるレイルウェイロード技術短期大学。ここを訪れると、民族衣装にヘルメット姿の女子学生たちの姿に驚かされる。どうやら測量の実習を受けているようだ。

公立学校の建築学科としては、パキスタンで初めての男女共学。同校の教育内容の改善に向け、派遣されていた伊藤稔専門家が女子学生の募集を提案した時、真っ先に賛成したのが、建築学科の教員のアジア・ジャビーンさんだった。パキスタ

ンでは女性の職業が公務員や看護師などに限られるが、この数年で変化が現れているのが建築業界。経済発展に伴う建設ラッシュで多くの人手が必要とされていることを知っていたからだ。

「短大なら学費も抑えられて、所得が低い家庭出身の女子でも入りやすい。技術を身に付けて高収入を得られる建築業界に就職することが、貧困削減の一步になるはず」とジャビーンさんは話す。彼女自身、ラホール技術工科大学建築学部で

学び、設計事務所での勤務を経て教員に採用された経歴を持つ。自分と同じように、新しい道を切り開いてほしいという思いがあるのだ。情勢不安により短大近くの駅で爆発事件が起きた時、女子学生の募集をやめようかという話もあったが、「彼女たちは私が守りますから」と必死に止めた。

2010年からの3年間で入学した女子学生は104人。彼女たちが社会を変えていく。ジャビーンさんはそう信じている。



in  
グアテマラ

## エレナ・チキバルさん

### 地域の強みを生かして生活を豊かに

**世** 界一美しい湖といわれるアテイトラン湖。そのほとりでは、マヤの伝統が代々受け継がれている。色鮮やかに染められた織物は、この地域の特産品。これを女性の生活向上に活用しようと奮闘しているのがエレナ・チキバルさんだ。

現在は、地域ごとに13の女性グループを立ち上げ、技術指導を行うとともに、売れる、製品を開発中。「女性たちの多くはこれまで教育を受ける機会がありませんでした。高い価格でも売れる製品を作って販売し、彼女たちの生活を変えたいのです」。

この活動のきっかけになったのは、チキバルさんが2007年に参加した日本での研修。戦後に日本で行われた生活改善運動についての講義を受け、農村の女性たち自らが

生活の問題を意識し、解決策を考えたことを知り、その取り組みは目からうろこだった。「住民自身の意志で参加することに意味がある」と知りました。誰かが助けてくれるのを待つのではなく、自分たち自身で良いものを作っていくという姿勢が大切なのだ。そうチキバルさんは振り返る。

帰国後は早速女性たちと積極的に議論するように心掛け、化学染料で染められた織物は色が落ちやすいという気付きをヒントに、天然染料を使った製品を作ろうと決めた。「どのようなデザインや色が流行しているのかマーケティングし、より求められる商品を作っていく」とチキバルさんは次のステップに向けて目を輝かせる。

in  
エチオピア

## フィクルタ・アデイスさん

### ファッションの力でできること

**児** 童心理学者から、ファッションデザイナーへ。アデイスさんの劇的な転身を後押ししたのは、母国のエチオピアが抱えるある課題だった。安く商品を生産するため、洋服などの生産現場で幼い女の子が働かされていたのだ。「デザイナーが生産者に正当な賃金を払えば、子どもまで働かせずに済むのに」とアデイスさんは考えた。

高校時代からデザインに関心が高かった彼女は、2009年に自らのブランド「Yekite Design」を立ち上げた。コンセプトは、エチオピアの伝統的な民族衣装からヒントを得たモダンなドレス。それを作るのはエチオピアの女性たちだ。子育てをしながらデザインを学び、ドレス作りに携わることで収入を得ることができれば、生活向上につながるはず。そんな思いで取り組み

を進め、ニューヨークやパリのショーなどで高い評価を得るまでにブランドは成長した。

今年2月、アデイスさんはJICAが日本で企画したアフリカ女性起業家セミナーに参加し、日本の女性起業家の取り組みや行政の女性支援の政策などを学んだ。現在は、その学びをエチオピアの女性起業家に共有するための研修づくりを進めているところだ。「質にこだわって改善を続けるからこそ成功のカギだと学びました。エチオピアには独特で美しい伝統があり、良いものをもっと世界に届けられるはず。数年後には、今より女性が活躍する国になっていると期待しています」。日本から持ち帰った知見で、自分自身もこの国も変えていきたい。パワフルな彼女の挑戦はまだ続く。